

平成23年度 病院事業会計予算概要

平成23年度の病院事業会計予算は、平成21年1月に策定した「留萌市立病院改革プラン」に基づき収入の確保と費用の抑制を進め、単年度収支均衡はもちろんのこと、総合内科医養成研修診療所の本格稼働や古くなった医療情報システムの更新、医療サービス提供の中心となる看護師のスキルアップのため、沖縄県豊見城中央病院との研修派遣事業の創設や医師確保の呼び水となるよう勤務医の負担を軽減するために医師の事務作業補助体制を強化するなど将来を見据えた編成を行いました。

まず、収益的（損益勘定）収支において、医師の体制を平成22年度とほぼ同じ水準を維持することができるとともに、泌尿器科の固定医1名の確保と総合内科医養成研修診療所の運営などで、診療収益は本院・診療所合わせて44億円を予定し、事業収益合計では平成22年度決算見込みと比べて、1億百万円増収となる54億3千万円を予定しています。

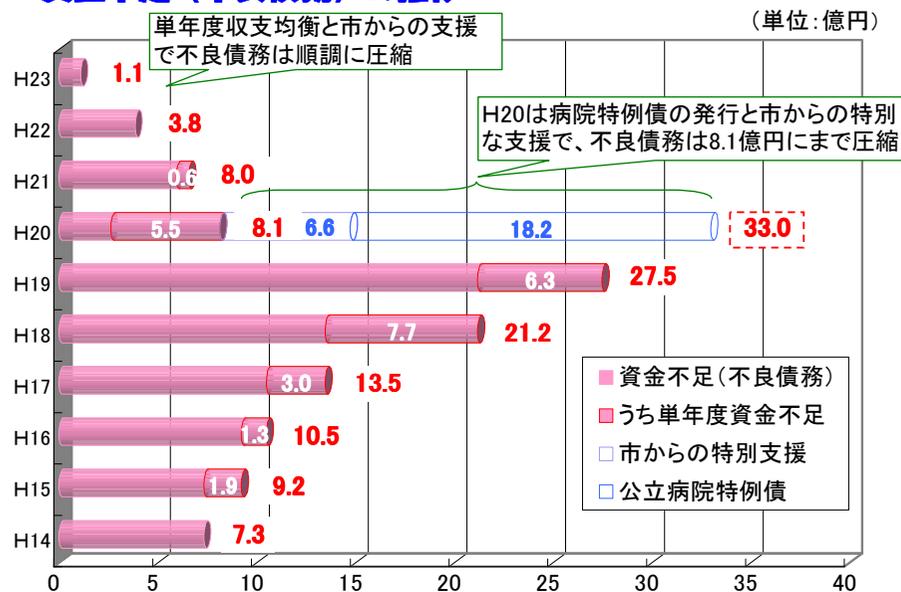
一方、費用につきましては医療スタッフの増員や医療情報システムの更新作業が必要となることで、人件費や委託料などで費用の増加を予定していますが、職員（医師除く）の給与カットや経費節減を継続して行いますので、事業費用合計では54億2千4百万円を予定し、平成22年度決算見込みと比べて、3千万円の増額で抑えています。

この結果、損益勘定収支は平成22年度決算見込みからは7千百万円の収支改善となり、平成12年度決算以来11年ぶりとなる純利益7百万円を計上することが出来ました。

また、資本的収支においては、借金の返済や退職金の支払いなどで3億3千7百万円の収支不足が生じていますが、損益勘定留保資金※6億6百万円で補てんしますので、市からの特別な支援（2億2千万円）を除いた病院事業単独での実質単年度収支は5千6百万円の黒字となり、順調に経営改善の歩みを進める予算となっています。

※損益勘定留保資金 減価償却費や固定資産の除却費など費用として予算計上されながら、現金の支出を必要としないものの合計額のことです。

☆資金不足（不良債務）の推移☆



☆実質収支比較☆

(単位: 百万円)

区	分	H23 予 算	H22 見 込 み	増 減
事業収益計	①	5,430.9	5,329.6	101.3
事業費用計	②	5,424.0	5,393.6	30.4
純損益(△損失)	③	6.9	△ 64.0	70.9
	① - ②			
損益勘定留保資金	④	606.2	610.1	△ 3.9
資本的収支差引	⑤	△ 336.8	△ 275.6	△ 61.2
単年度収支	⑥	276.3	270.5	5.8
	③ + ④ + ⑤			
特別支援等	⑦	220.0	220.0	0.0
実質単年度収支⑥-⑦		56.3	50.5	5.8
資金不足(不良債務)額		108.6	384.9	△ 276.3

※事業収益及び費用は税抜きで表示しています。

1. 収益的収入の状況

病院事業の収入は、みなさんの入院料及び外来診療料等によりまかなわれています。内訳は、下記のとおりです。

※税抜きで表示

(単位：千円、%)

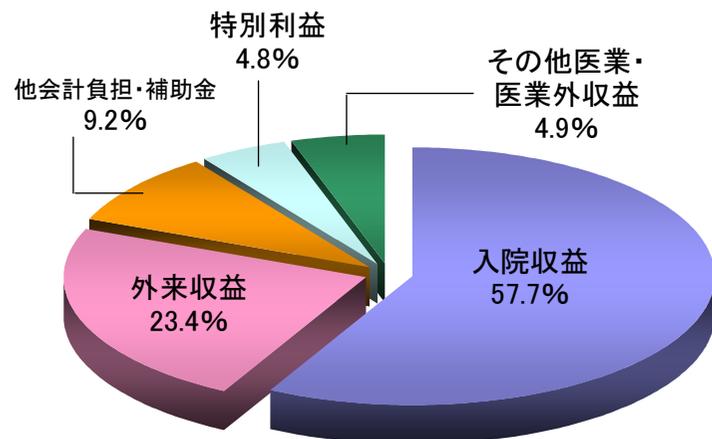
区 分	内 容	平成 23 年 度		平成 22 年 度		比較増減	増減率
		予 算 額 A	構 成 比	当初予算額B	決算見込額C		
入 院 収 益	入院料など	3,132,154	57.7	3,040,957	3,040,957	91,197	3.0
外 来 収 益	本院及び診療所の外来診療料など	1,271,854	23.4	1,274,795	1,274,795	△ 2,941	△ 0.2
他会計負担・補助金	留萌市からの負担金・補助金（繰入金）	499,159	9.2	502,283	502,283	△ 3,124	△ 0.6
その他医業収益	室料差額、健康診断料、診療所の交通費実費分など	213,178	3.9	208,364	208,364	4,814	2.3
医業外収益	道補助金、職員給食費・保育料など	55,740	1.0	39,778	46,183	9,557	20.7
特別利益	資産の売却益など（23年度は特例債元金償還支援）	258,774	4.8	256,972	256,972	1,802	0.7
合 計		5,430,859	100.0	5,323,149	5,329,554	101,305	1.9

前年度決算見込みと比較して、固定医の異動が少なく、診療体制もほぼ維持することができたことで診療の質の向上が期待できることから、入院・外来収益は8千8百万円の増収を予定しています。また、その他医業収益においては、健診メニューの拡充などにより、5百万円の増加を予定しています。

医業外の収益は、産科医療に関する北海道からの補助金の増額を予定しています。

これにより収益的収入の合計は、前年度決算見込みと比較して、約1億円増の54億3千万円を予定しています。

☆収益的収入の内訳☆



☆主な増減内訳☆

(単位：千円)

入 院 収 益	一般病床の利用者増 1,920人 91,197増収
外 来 収 益	利用者減 △4,804人 2,941減収 (整形外科医師減、総合内科研修医の交代 など)
他会計負担・補助金	留萌市からの繰入金 3,124減収 (経営効率化などで収支不足額を圧縮)
その他医業収益	健康診断収益の増 7,113 など
医業外収益	道補助金の増 (医療施設(産科)運営費 11,405 など)
特別利益	公立病院特例債元金償還 1,802

2. 収益的支出の状況

職員の給料、医薬品購入等の病院事業を運営するために必要な経費です。内訳は、下記のとおりです。

※税抜きで表示

(単位：千円、%)

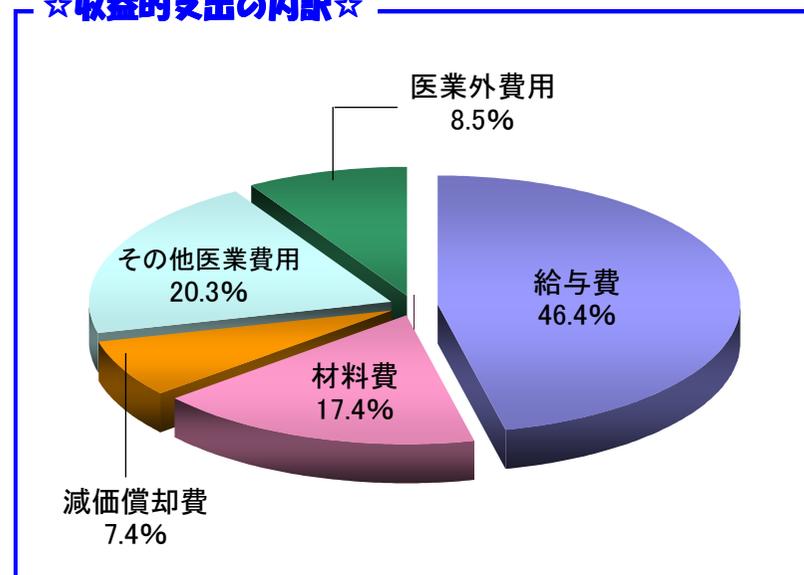
区分	内 容	平成 23 年 度		平成 22 年 度		比較増減 D (A - C)	増減率 D / C
		予 算 額 A	構 成 比	当初予算額 B	決算見込額 C		
給 与 費	職員の給料・手当など	2,519,253	46.4	2,492,561	2,455,593	63,660	2.6
材 料 費	薬・注射・診療に用いる材料・給食材料など	942,638	17.4	952,800	962,393	△ 19,755	△ 2.1
減 価 償 却 費	建物や機器などの減価償却	401,403	7.4	410,046	410,046	△ 8,643	△ 2.1
その他医業費用	診療委託料(出張医)・施設維持管理経費など	1,098,705	20.3	1,103,526	1,098,119	586	0.1
医業外費用	企業債(借入金)利息・保育施設経費・患者搬送費など	459,165	8.5	458,723	464,571	△ 5,406	△ 1.2
特別損失	貸付金償還免除費、医療費収入不納欠損金など	1	0.0	1	2	△ 1	△ 50.0
予 備 費		2,857	0.0	2,857	2,857	0	0.0
合 計		5,424,022	100.0	5,420,514	5,393,581	30,441	0.6

前年度決算見込み額と比較して、看護職や臨床工学技師、診療録管理士や病棟クラーク(医師事務補助員)などスタッフの増員により、給与費で6千4百万円の増加を予定しています。また、後発薬品の採用拡大などで材料費が2千万円の減少、減価償却費で9百万円、企業債利子で5百万円の減少を予定しています。

このほか、看護師のスキルアップの一環として研修派遣事業の実施を予定しています。

これにより収益的支出の合計では、前年度決算見込額と比較して、3千万円増の54億2千4百万円を予定しています。

☆収益的支出の内訳☆



☆主な増減内訳☆

(単位：千円)

給 与 費	スタッフの増員による給与費増 63,660 (看護職、臨床工学技師、診療情報管理士、病棟クラーク)
材 料 費	後発薬品の採用拡大など材料費の抑制を実施 △19,755
減 価 償 却 費	器械及び備品償却費の減 △8,643
その他医業費用	看護師研修派遣の実施 515 など
医業外費用	企業債利子の減 △8,767 など
特別損失	医療費不納欠損の減 △1

3. 資本的収支の状況

資本的収支とは将来の経営活動に備えて行う医療機械の購入・施設整備やそれにかかる企業債の元金償還、勤奨や定年退職者の退職金などの支出とその財源になる借入金や企業債償還のための留萌市からの出資金などの収入のことをいいます。内訳は、下記のとおりです。

☆資本的収入☆

(単位：千円、%)

区分	内容	平成23年度		平成22年度		比較増減 D(A-C)	増減率 D/C
		予算額A	構成比	当初予算額B	決算見込額C		
企業債	企業債(借入金)	350,000	39.7	50,000	49,900	300,100	601.4
他会計出資・負担・補助金	留萌市からの出資金、負担金・補助金(繰入金)	530,884	60.3	526,788	526,788	4,096	0.8
その他	資産購入補助金、固定資産売却代金、貸付金償還金	3	0.0	4,203	4,203	△4,200	△99.9
資本的収入合計		880,887	100.0	580,991	580,891	299,996	51.6

☆資本的支出☆

(単位：千円、%)

区分	内容	平成23年度		平成22年度		比較増減 D(A-C)	増減率 D/C
		予算額A	構成比	当初予算額B	決算見込額C		
建設改良費	医療器械の購入・施設整備など	354,418	29.1	59,920	60,920	293,498	481.8
企業債償還金	企業債の元金償還金	707,111	58.1	699,784	699,784	7,327	1.1
繰延勘定	勤奨や定年退職者の退職金	129,730	10.7	37,107	72,013	57,717	80.2
その他	修学資金・研究資金貸付金など	26,400	2.2	23,724	23,724	2,676	11.3
資本的支出合計		1,217,659	100.1	820,535	856,441	361,218	42.2
収支差引		△336,772	-	△239,544	△275,550	△61,222	22.2

平成23年度には、企業債(借入金)を財源とした医療器械や医療情報システムの更新で3億5千万円を予定しています。また、看護師確保対策として取り組んでいる修学資金の貸付予定者を31人(新規で10人)、これに当院就職後の研究資金の貸付予定者7人分を含めまして、貸付金2千5百万円を予定しています。

このほか前年度決算見込額と比較して、定年退職予定者が増加することにより、退職給与金5千8百万円の増加を予定していますので、資本的収支差引においては、3億4千万円の不足が見込まれます。

※この収支不足額は、損益勘定留保資金などで補てんしています。

☆主な増減内訳☆

<収益> (単位：千円)

企業債	医療器械等整備事業債 300,000増(発行予定額 350,000)
他会計出資・負担・補助金	留萌市からの出資金(企業債元金償還負担)の増 3,908 など
その他	簡易陰圧装置整備事業補助金 △4,200

☆主な増減内訳☆

<費用> (単位：千円)

建設改良費	医療情報システム整備事業 300,000 簡易陰圧装置整備 △4,200 など
企業債償還金	企業債元金償還の増 5,525 公立病院特例債元金償還の増 1,802
繰延勘定・その他	退職予定者の増による退職給与金の増 57,717 貸付金対象者の増 2,676

4. 企業債残高及び元利償還金の状況

企業債とは、建設改良事業(病院の場合は病院や医師住宅の建設、医療器械やシステムの整備など)を行うにあたり、資金が不足している場合に起こす地方債(借金)のことです。

病院事業の元利償還(返済)金は、病院建設事業(本体工事や周辺整備、移転のために更新した医療器械)のために借り入れた企業債の返済が本格化したために年々増加し、平成18年度には8億3千万円にまで上昇、一端ピークを迎えました。その後、医療器械分の返済の一部が終了しましたので、19、20年度は6億円程度にまで下がりましたが、20年度に医師不足が理由で発生した赤字を分割返済する特別な企業債(公立病院特例債 18億2千4百万円)を発行したことにより残高が増加し、返済額も21年度からは8億6千万円に上昇しています。(公立病院特例債の元利償還金は、全額市からの繰入金で返済しています。)

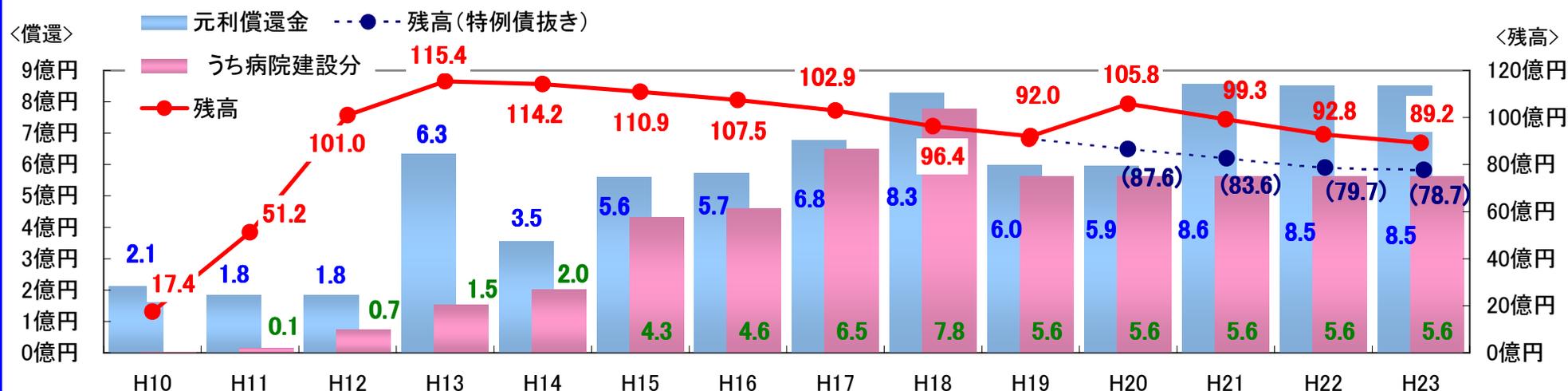
23年度には移転改築時に整備した医療情報システムなどを更新するために3億5千万円を借り入れる予定ですが、24年度以降は必要な医療器械等について病院内で精査し、適切な更新・導入を行うことで建設改良事業を抑制しますので、残高は緩やかに減少していきます。

☆企業債償還金及び残高の推移☆

(単位：百万円)

	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23
元金	166	138	138	462	172	377	394	504	659	436	440	698	700	707
利子	44	47	47	170	182	181	178	174	169	161	154	160	151	143
元利償還金	210	185	185	633	355	558	572	678	827	597	595	858	851	850
うち病院建設分	3	14	75	152	202	432	461	649	778	563	563	563	563	563
うち公立病院特例債												267	268	268
残高	1,744	5,124	10,098	11,544	11,419	11,092	10,748	10,294	9,635	9,200	10,583	9,927	9,276	8,919
特例債除く残高											8,759	8,357	7,964	7,866

☆企業債償還金と残高の推移☆



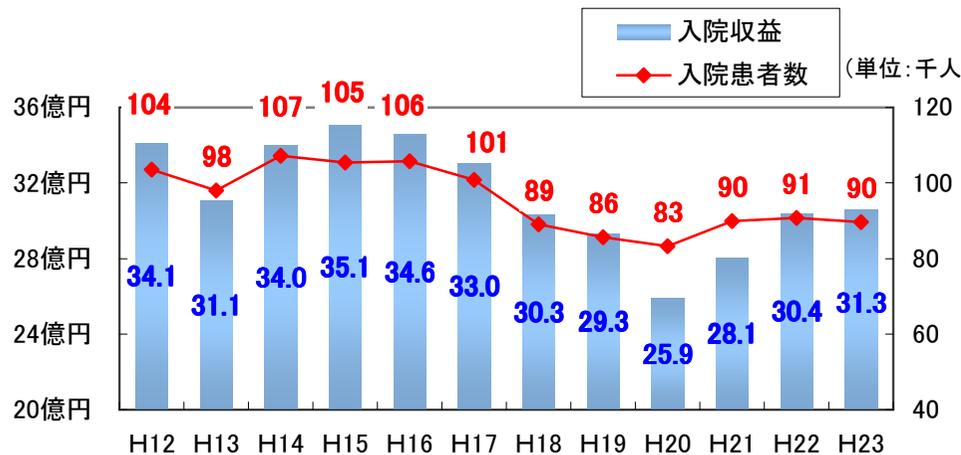
※H13は新病院完成に伴い、旧施設処分にかかる繰上償還(2億64百万円)を実施しているため一時的に償還額が増えています

5. 利用者数及び入院・外来収益の推移

当院利用者数は、平成16年度から実施されている医師の新臨床研修制度の影響から、大学病院医局の医師派遣事情により固定医が確保できない診療科が増え始めたことにより毎年度減少し続け、平成20年度においては入院患者は療養病棟が本格稼働しているにもかかわらず8万3千人にまで減少、外来においても12万8千人となり、ここ数年間で最低を記録してしまいましたが、平成21年度は、皮膚科、脳神経外科の固定医の確保などにより診療を拡大することで、入院・外来ともに利用者は増加に転じました。平成22年度には皮膚科と泌尿器科で入院診療を休止せざるを得なくなりましたが、これまでの医師確保活動が実を結び始め、一部診療科で診療内容の強化・拡大が可能となっており、利用者の減少は最小限で済み、平成23年度も引き続き同程度の診療体制を維持することが出来る見込みで、今後の経営健全化に向けてようやく明るい兆しが見られるようになっていきます。

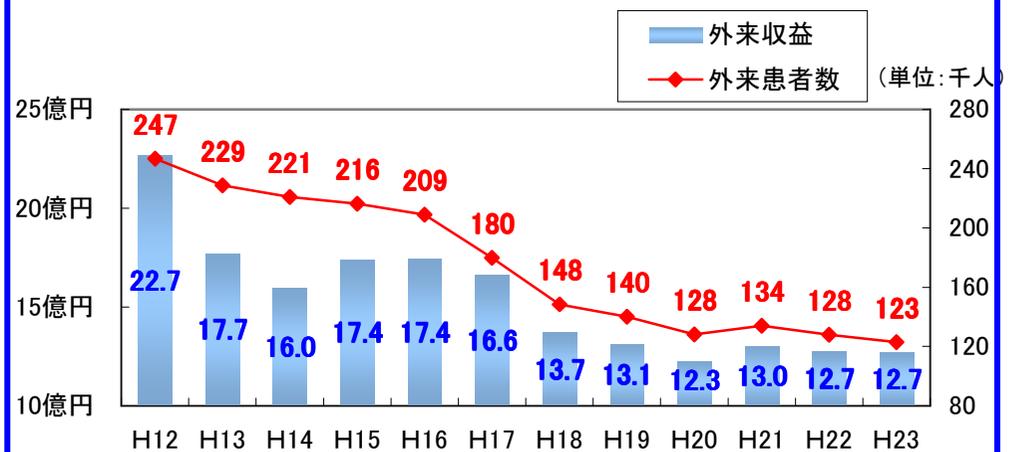
収益におきましては、外来は横ばいですが、入院においては診療単価の増額が見込まれるため増収となる見込みです。

☆入院患者数・収益の推移☆



- ・平成13年度 新病院への移転に伴う入院患者調整
- ・平成14年度 新築効果による患者数の増
- ・平成15年度 長期入院患者の減による延患者数の減
看護体制充実などによる診療単価の上昇
- ・平成16年度 形成外科入院診療休止、産婦人科体制縮小
- ・平成17年度 皮膚科、耳鼻咽喉科入院診療休止
- ・平成18年度 呼吸器内科入院診療休止、循環器内科体制縮小
- ・平成19年度 外科、脳神経外科の診療体制縮小
11月より療養病棟（50床）開設
- ・平成20年度 循環器内科入院診療休止
- ・平成21年度 皮膚科入院診療再開
脳神経外科入院診療拡大
- ・平成22年度 循環器内科、眼科の入院診療再開
皮膚科、泌尿器科入院診療休止

☆外来患者数・収益の推移☆



- ・平成13年度 新システムの始動に伴う患者制限
院外処方拡大による診療単価の減
- ・平成14年度 長期投薬解禁に伴う再来患者数の減
- ・平成16年度 産婦人科、形成外科の診療体制の縮小
- ・平成17年度 皮膚科、耳鼻咽喉科の診療体制の縮小
- ・平成18年度 循環器内科、呼吸器内科の診療体制の縮小
- ・平成19年度 外科、脳神経外科の診療体制縮小
10月より在宅支援診療所開設
- ・平成20年度 在宅診療本格稼働
- ・平成21年度 脳神経外科診療体制拡充
- ・平成22年度 循環器内科、眼科の診療体制拡充
皮膚科、泌尿器科の診療体制縮小
- ・平成23年度 泌尿器科通常診療再開

6. 予定貸借対照表 ～バランス・シート～ (平成24年3月31日)

貸借対照表とは、一定時点における会計の財政状況を示す一覧表のことで、「資産」と「負債」「資本」を対照表示することによって、会計の財政状況を明らかにする財務諸表です。資産合計と負債資本合計が必ず一致し、表の左右のバランスがとれるのでバランスシートとも呼ばれます。

※資産の部の未収金が約8億円もありますが、この中には月遅れで入金される保険者(社会保険や国民健康保険など)からの収益や道からの補助金などが含まれています。

☆資産の部☆

区分	金額
1 固定資産	
(1) 有形固定資産	
イ 土地	519,764
ロ 建物	5,265,723
ハ 構築物	60,019
ニ 器械及び備品	633,250
ホ 車両	629
ヘ 建設仮勘定	0
有形固定資産合計	6,479,385
(2) 無形固定資産	
イ 電話加入権	1,858
無形固定資産合計	1,858
(3) 投資	
イ 看護師修学資金貸付金	68,765
ロ 看護師研究資金貸付金	16,225
投資合計	84,990
固定資産合計	6,566,233
2 流動資産	
(1) 現金預金	56,148
(2) 未収金	862,498
(3) 貯蔵品	31,106
(4) 前払金	0
(5) 仮払金	0
流動資産合計	949,752
3 繰延勘定	
(1) 退職給与金	378,692
(2) 控除対象外消費税額	237,081
繰延勘定合計	615,773

(単位:千円)

資産合計 8,131,758

☆負債の部☆

区分	金額
4 固定負債	
(1) 公立病院特例債	1,053,371
(2) その他固定負債	15,056
固定負債合計	1,068,427
5 流動負債	
(1) 一時借入金	550,000
(2) 未払金	488,174
(3) 預り金	20,157
流動負債合計	1,058,331

☆資本の部☆

区分	金額
6 資本	
(1) 自己資本	
イ 固有資本	1,793
ロ 繰入資本	3,709,069
ハ 組入資本	16,850
自己資本合計	3,727,712
(2) 借入資本	
イ 企業債	7,866,242
借入資本合計	7,866,242
資本金合計	11,593,954
7 剰余金	
(1) 資本剰余金	
イ 寄附金	7,302
ロ 国道補助金	614,296
ハ 他会計補助負担金	2,942,375
ニ 受贈財産評価額	37,761
資本剰余金合計	3,601,734
(2) 欠損	
イ 当年度未処理欠損	9,190,688
欠損金合計	9,190,688
剰余金合計	△ 5,588,954

負債資本合計 8,131,758

7. 予定キャッシュフロー計算書 (平成23年4月1日～平成24年3月31日)

キャッシュフロー計算書とは、一定期間の「現金(キャッシュ)の流れ(フロー)」を業務活動・投資活動・財務活動などに区分して表す財務諸表です。会計上の損益の額は現金等の収支と一致しないため、キャッシュフロー(CF)計算書を用いることで損益計算書等では見えてこない現金の流れを知ることができます。

☆①業務活動によるCF☆

区分	予定額	損益勘定留保資金	キャッシュフロー
入院・外来収益	4,345,430		
他会計負担金(3条・医業)	81,074		
その他医業収入	212,441		
診療所収益	59,315		
給与費支出	△ 2,455,976		
材料費支出	△ 938,052		
経費支出	△ 1,073,305		
研究研修費支出	△ 18,003		
資産減耗費	△ 1,600	1,500	
減価償却費	△ 401,403	401,403	
診療所費用	△ 73,660		
医業収支	△ 263,739		
受取利息及び配当金収入	1		
患者外給食収入	1,765		
他会計補助及び負担金(3条)	418,085		
道補助金	32,415		
保育施設収入	2,020		
その他医業外収入	19,539		
支払利息支出	△ 152,623		
患者外給食材料費支出	△ 1,064		
保育施設費支出	△ 12,946		
繰延勘定償却費	△ 186,374	186,374	
患者搬送費支出	△ 3,721		
その他医業外費用支出	△ 102,437	16,106	
消費税資本的収支調整額	0	819	
経常損益	△ 249,079		
特別利益収入	258,774		
特別損失支出	△ 1		
予備費(3条)	△ 2,857		
当年度純損益	6,837		
流動資産・流動負債収支A		613,039	
未収金の増加額			△ 26,198
たな卸資産の減少額			100
未払金の増加額			△ 45,620
キャッシュフロー調整額			△ 71,718
業務活動によるキャッシュフロー			541,321

☆②投資活動によるCF☆

(単位：千円)

区分	予定額	損益勘定留保資金	キャッシュフロー
固定資産の取得による支出	△ 354,418		
上記にかかる補助金等	1		
固定資産の売却代金	1		
修学資金・研究資金貸付金	△ 25,400		
修学資金・研究資金貸付金償還金	1		
繰延勘定(4条退職給与金)	△ 129,730		
予備費(4条)	△ 1,000		
流動資産・流動負債収支B		△ 510,545	
未収金の増加額			0
未払金の増加額			129,730
キャッシュ・フロー調整額			129,730
投資活動によるキャッシュフロー			△ 380,815

☆③財務活動によるCF☆

区分	予定額	損益勘定留保資金	キャッシュフロー
長期借入(企業債)による収入	350,000		
長期借入(企業債)の返済	△ 707,111		
他会計出資金	296,789		
他会計負担・補助金(4条分)	234,095		
流動資産・流動負債収支C		173,773	
短期借入による収入			2,000,000
短期借入の返済			△ 2,350,000
キャッシュ・フロー調整額			△ 350,000
財務活動によるキャッシュフロー			△ 176,227

☆④現金等の増加(減少)額☆ ①+②+③ = △ 15,721

☆⑤現金等の期首残高☆ 71,869

☆⑥現金等の期末残高☆ ④+⑤ = 56,148

※参考 流動資産・流動負債収支(A+B+C) 276,267

・業務活動によるCF: サービスの提供など営業活動から稼ぎ出した現金
 ・投資活動によるCF: 資産の取得、売却など
 ・財務活動によるCF: 借入金や市の繰入など外部からの資金調達
 ※資本的収支238,846千円の不足を損益勘定留保資金で補っています。